

今号の内容

- 富士見市の歴史がおもしろい！ — 市民学芸員養成講座へのお誘い —
- 城跡シリーズ①「馬出」
- 「わたくり」
- 記憶に刻まれた戦争～記憶も資料～
- 夏のイベント予定

富士見市の歴史がおもしろい！ — 市民学芸員養成講座へのお誘い —

難波田城資料館市民学芸員 広報担当



縄文の森で人々が生活していた原始時代の富士見市、武蔵野の大地を武士が駆け巡っていた中世の富士見市、富士見市の様々な歴史の姿にふれてみませんか。

富士見市立資料館では、8月29日の土曜日から富士見市の歴史や文化などを学ぶ「富士見の歴史を学ぼう(市民学芸員養成講座)」が始まります。富士見市に住んでいても地元のことをあまり知らなかった方や、最近になって富士見市に移り住んできた方にとっても、郷土の自然・歴史・民俗そして文化財などに浸る絶好の機会です。今まで知ることがなかった郷土の素晴らしさを発見できることでしょう。

この講座は、難波田城資料館が2000年(平成12年)にオープンする時にあわせてスタートしました。3年に1度開催され、今回で10期目を迎えます。8月から始まる基礎講座は、水子貝塚資料館コースと難波田城資料館コースに分かれてそれぞれ月1回のペースで、主に土曜日の午前中に行われ、両方のコースを受講することもできます。毎回、富士見市の

文化財に携わる職員(学芸員)が、市域の様々な歴史を分かりやすく紹介します。基礎講座を修了すると来年1月から2月に開かれる専門講座を受講できます。修了後は、それぞれの資料館の「市民学芸員」として登録することができます。

市民学芸員は、資料館長から委嘱を受けて一人一人が資料館のために活動するボランティアです。郷土の歴史との中で生きてきた人々のことを来館者や来園者に伝える一員となります。資料館や公園の解説、体験活動のお手伝い、小学生の社会科見学の補助などが主な役割です。まさに、地域づくりを担う資料館のパートナーとなります。

広報「富士見」7月号には、講座の実施内容とともに市民学芸員活動の紹介も掲載されます。

講座は、富士見市の歴史や文化を知りたいだけという方でも気軽に参加できます。「富士見の歴史を学ぼう」への参加で、過去にタイムトラベルしてみたいかがですか。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。



図 公園敷地と城遺構

難波田城公園では、堀に囲まれた部分を「曲輪(くるわ)」と表記し、中心に近い部分から番号をつけています。その中の曲輪2を「馬出曲輪」と位置付けています。

「馬出」とは、日本の城郭における防衛施設の一つです。おもに城門の前に設けられた小さな区画や曲輪で、敵の侵入を防ぎつつ、城内からの反撃を容易にする役割を持っていました。馬出は、円形の「丸馬出」と方形の「角馬出」に大別されます。角馬出は戦国時代の関東地方に多く見られ、北条氏系の築城術ともいわれます。

難波田城の馬出曲輪の特徴は以下の通りです。

- ①角馬出の形態をしている。
- ②本城である曲輪1に直接つながっている。
- ③周囲の土塁や堀と組み合わせて防衛力を高めつつ、堀によって敵の移動を制限し、馬出内での戦闘を有利に進める工夫がされている。
- ④曲輪3から馬出曲輪(曲輪2)へ続く木橋は、馬出曲輪に近づくほど狭くなるように設計されている。

難波田城公園では、これらの遺構が保存・復元されており、当時の防衛施設を実感することができます。(大野 現)

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

城跡シリーズ①「馬出(うまだし)」

おもしろ・なつかし体験 [85]

「わたくり」

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

ギヒーッコ!!ギヒーッコ!! 旧金子家住宅の座敷で、わたくり機(綿繰り機)のきしむ音が響き、いろいろ見学の家族連れが興味深そうに目を向けてくれています。

「おもしろそう～」と、わたくり機で綿花から綿と種を分ける体験をされ、最後は世界に一つだけの花ならぬワタの種を持ち帰られました。

なんで5月に「わたくり」のちよっこ体験? そう!5月はワタの栽培が始まる種まきのシーズン。

7月下旬から8月にかけての開花では、レモンイエロー、薄い紅色、といった花の色の変化を楽しめます。

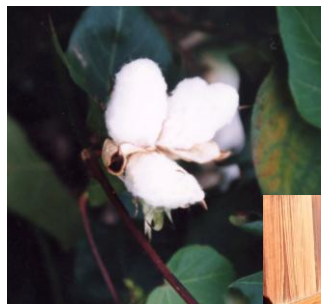
花が咲いた後、実ができ、それが割れると綿花になります。綿花は種と綿が強くくっついていて、それを分けるためにわたくり機の登場となったそうです。

この地方でワタの栽培が盛んだったのは、江戸時代

末から明治時代前半で、その後、安価で良質な外国産綿花に押され急激に衰退。それ以降、第二次世界大戦前後までは農家の自給用として栽培されたそうです。

公園内の畑で育てたワタから糸を紡ぎ、その糸で布を織り上げている「資料館友の会 木綿部会」もここで活動し、糸つむぎやはたおり体験の指導をしています。

ワタに関する様々な活動。どれか一つでも、ちよっこ体験されてみませんか? (古橋 純子)



綿花



市ホームページでワタに関する動画を公開中!

「難波田城 ワタ 動画」で検索!

人の創ったもの★人の使ったもの

記憶に刻まれた戦争～記憶も資料～

開催中の企画展「富士見市に刻まれた戦争 ～戦後 80 年の記憶～」(6/14 まで)では、日中戦争とアジア・太平洋戦争に関する様々な資料を展示しています。ここでは、「記憶に刻まれた戦争」のコーナーの 2 名の方々の戦争体験談を紹介します。

戦争体験談の募集 この企画展に向け、令和 7 年(2025)3 月～5 月に広報富士見等で「富士見市に所縁のある方の戦争体験を伝え残します」として募集しました。戦後 80 年が過ぎようとする中、直接的な戦争体験がある方が少なくなっているため、「家族や友人から聞いた短いエピソードでも構いません」としました。応募のあった 11 名のうち、ここで紹介する 2 名は父親を戦地で亡くした方々です。

戦地からのハガキに父を想う

一人目は昭和 12 年(1937)生まれの T.Y. さん(88 歳女性)です。以下は聞き取った内容の一部です。

私の父は 30 歳のときに、ビルマ(現在のミャンマー)で戦死しました。私が 4 歳のときに出征(軍隊に加わって戦地に行くこと)したので、父の記憶はほとんどありません。

でも、私の手元には、戦地の父が自分の父親と妻あてに送った軍事郵便のハガキ 40 枚があります(写真 1)。昭和 18 年(1943)から約 2 年の間に届いたものです。自分の健康状態や現地の気候のほか、家族や農作業の様子を心配する内容が書かれています。これ以外にも幼い私あてにカタカナだけで書いたハガキもありました。私は、とても喜んだことを覚えています。

父の遺骨は戻らず、骨箱には木の位牌だけが入っていました。父を失った我が家の生活は大変でした。祖



写真 1 戦地の父から送られたハガキ(本人蔵)

びっしりと並んだ小さな文字から故郷を思う気持ちが伝わる。

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

父母と母で畑作物を作り、売って生計を立てていました。

平成 6 年(1994)に日本遺族会主催の慰霊友好親善訪問団に参加し、父の戦没地を訪ねました。同じような境遇の方たち 21 名と一緒に 9 日間かけて、順番に慰霊をしました。全員が「お父さん!」と大きな声を出し、思いっきり泣いていました。

会ったことのない父の戦没地を訪ねて

二人目は昭和 19 年(1944)生まれの M.K. さん(81 歳男性)です。以下は聞き取った内容の一部です。

私の父は、私が生まれる半年前、昭和 19 年(1944)6 月に出征し、翌年 3 月にフィリピンのレイテ島で戦死しました。ですから、私には父の記憶がありません。

父を失った我が家は、大変な苦勞をしました。いちばん辛かったのは、小さな農家で収入が少なかったため、費用がかかる学校の遠足に行けなかったことです。遠足を休んで家にいた私に、母は家で飼っていた鶏の卵をゆで卵にして食べさせてくれました。当時、卵は貴重品で、売って現金収入にしていたので、ふだんは食べませんでした。

平成 27 年(2015)に日本遺族会主催の慰霊友好親善訪問団に参加し、父の戦没地を訪ねました。同じ境遇の 24 名と 8 日間で 7 カ所を巡り、慰霊をしました。

家に父に関する物はほとんど無く、戦後、若い頃の写真を基に書いてもらったという肖像画(写真 2)があるくらいです。



写真 2 父の肖像画(本人提供)

戦後は戦没者の肖像画を描く人が地域をまわっていたという。

伝え残すべき記憶を「資料」とする

『埼玉県遺族会連合会史』(1986 年発行)によれば、満州事変からアジア・太平洋戦争終戦までの、富士見市域出身の戦没者(戦闘以外の戦病死者も含む)は 290 名です。その一人一人の“死”に、お二人と同じように悲しみ苦しんでいる遺族がいます。そのことを今、そして後世の、戦争を知らない世代に伝えるため、体験談すなわち記憶を文章にして「資料」としました。(駒木敦子)

夏のイベント予定

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

●じゃがいも掘り

とき／6月21日(日)①午前10時、②午前11時
(各1時間程度)※悪天候時は翌週に延期
集合場所／旧金子家住宅前(畑は公園の隣です)
定員／各16組(申込順) 参加費／1組1500円
主催／難波田城公園活用推進協議会
申込み／6月3日(水)午前9時から電話で

●竹かご教室

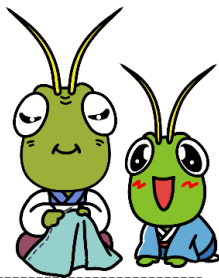
「六ツ目編みカゴ」を作ります。
とき／7月5日(日)午前9時30分～午後4時
会場／講座室 対象／中学生以上
定員／10人(申込順、応募多数時は初参加優先)
参加費／1000円 指導／資料館友の会竹かご部会
申込み／6月2日(火)午前9時から電話で

●糸つむぎ(糸車)体験

とき／7月23日(木)、30日(木)、8月6日(木)
午前10時～正午、午後1時～3時(体験は5～10分程度)
会場／講座室 指導／資料館友の会木綿部会
参加費／無料 申込み不要

●子ども裁縫教室

とき／7月29日(水)午前10時～午後2時
会場／講座室 対象／小学生～中学生
定員／15人(申込み順)
参加費／300円(材料代)
作品／①きんちゃく袋 ②ショルダーバッグ
③ポケットバッグ ④ペンケース
からいづれかを選択
指導／美楽の会
申込み／7月1日(水)～7月20日
(祝・月)までに電話で



●夏休み古民家宿泊体験

古民家に泊まって、昔の暮らしを体験しよう!
とき／8月8日(土)午後1時～9日(日)午後2時
内容／工作、食事作り、ごえもん風呂など
対象／12人(市内在住・在学の小学4～6年生)
参加費／2500円(材料費・食費)
申込み／往復はがきにて
※詳しくは広報「富士見」7月号をご覧ください。

●早朝の蓮を見学できます

6月13日(土)、20日(土)、27日(土)、7月4日(土)は、午前6時30分に開園します。開花状況はお問い合わせください。資料館や古民家は通常どおり午前9時開館です。

●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月21日(日)ふかしいも(じゃがいも)
7月の流しそうめんは中止です。
8月はお休みです。
※11時から。売り切れ次第終了

田舎まんじゅう販売 第1・3日曜日 10:30～

●富士見市石造物調査(南畑地区)協力者募集!

南畑地区の石造物を拓本、ひかり拓本、フォトグラメトリ等で調査し、報告書を作成します。
本事業は富士見市提案型協働事業採択事業として、資料館と市民の皆様(資料館友の会拓本部会、市民学芸員、今回の応募者)が力を合わせて取り組みます。
富士見市の歴史を未来に伝えませんか?

事業の進め方／1年目：調査(技法の習得と実践)。2年目：報告書刊行、関連企画展実施。3年目：市内石造物調査まとめの刊行
対象／中学生以上。資料館まで通える方
募集人員／5人(申込み順)
活動日／月2～3日 ※活動はボランティアとなります。
問合せ・申込み／随時。電話で
※担当者が折り返し対応させていただきます。

お知らせ

「難波田城だより」のバックナンバー(カラー版)はこちらから

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/nanbatajo-dayori.html



富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時
◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト